オオムラサキ通信

No.36

発行：平成 13 年 4 月 30 日
編集：長坂町オオムラサキセンター
〒408-0022　山梨県北巨摩郡長坂町塚川 2812 番地
TEL&Fax　0551-32-6648

サクラソウ

オオムラサキ自然公園が大きくなりました。

オオムラサキセンター館長　瀬戸　龍徳

今年度、オオムラサキ自然公園には、隣地に棚田を利用し田舎の原風景を再現した「土といきものの里　日野春農村公園」が４月２９日に完成し、雑木林の生態系に触れながら里山の大切さを学べる「オオムラサキ生態観察施設」が６月に完成し、益々、環境教育の場として充実します。

「土といきものの里　日野春農村公園」は、約１ヘクタールの敷地を利用し、棚田や水路、木道、水車小屋、つり橋などが整備され、ホタルやメダカなどの水生生物の繁殖にも力を入れるもので、子供たちの農業体験や自然観察の場としてぜひ、皆様に利用していただきたいと思っております。

また、「オオムラサキ生態観察施設」は、広さ１４００平方メートルの鉄骨ネット張りの施設で、オオムラサキの食樹であるエノキと樹液の出るクヌギのほか雑木林を復元させ、約３００頭のオオムラサキをはじめとしてクワガタやカブトムシなどの昆虫も放し、直接生きた雑木林の昆虫たちと触れ合いながら里山の雑木林の大切さやオオムラサキについて学ぶ事ができます。公営の同様の施設では日本最大のものです。ぜひ、「国蝶オオムラサキ」やその生息する雑木林を含む「里山」について学びにいらして下さい。これからも職員一同、より良い「環境教育の場」を目指して頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願い致します。

オオムラサキ最新情報

幼虫たちは越冬の眠りから覚め、エノキの芽吹きに合せるかのように幹を登り始めています。

寒い日には、せっかく登った幹を降りて落ち葉の中に潜ってしまいます。幹に張り付いている幼虫の姿は、エノキの幹の表面にそっくりです。これなら、鳥に見つかることはありません。こんなカモフラージュもあるのですね。毎日、少しづつエノキの幹を登っていますが、まだ半分くらいは落ち葉の中です。今年は大雪の後、乾燥した日が続き、幼虫たちは干からびてしまうものが多く見られます。オオムラサキ自然公園の幼虫たちも、生存率は４０パーセントくらいにしかなっていません。少しでも生き延びてもらいたいです。

どこにいるのかわかる？
オオムラサキの４齢幼虫

イベント情報

ボランティアの日

オオムラサキセンターのお手伝いをして下さい。

開催日時　５月１２日（土）
　　午前１０時から１２時まで
開催場所　オオムラサキ自然公園
内　　容　随時内容が変わります。
　　（草刈り、笹刈り、ゴミ拾い等）
主　　催　オオムラサキセンター
服　　装　作業のできる服装、軍手

世界の面白い昆虫展

世界の奇麗、かわいい、大きい昆虫などの標本を展示します。

世界の大型カブトムシやクワガタ、色の美しい昆虫、形が変わっている昆虫などの標本を展示します。触れる展示コーナーでは、キーホルダー型の透明樹脂の中にクワガタや人面カメムシ等の標本がいますので、裏側も手にとって見ることができます。

開催期間　１３年**４月２９日（日）**から**５月１３日（日）**まで
開催場所　オオムラサキセンター

水生昆虫観察会

川や池の生き物を探してみよう。

開催日時　５月６日　（日）
　　午前１０時から１２時まで
定　　員　３０名
開催場所　オオムラサキ自然公園
持ちもの　軍手、長靴、魚をすくう網
講　　師　山梨県淡水魚研究会
服　　装　汚れても良い服装、
　　＊雨天中止

里山の野鳥を見よう

オオムラサキの観察　２

里山の野鳥たちとオオムラサキのことを考える観察会。
一年を通して季節ごとのオオムラサキを観察し、自分の観察記録ノートを作ろう。

開催日時　５月２７日（日）
　　午前１０時から１２時まで
定　　員　１５名
開催場所　オオムラサキ自然公園
講　　師　伏見　勝
　　（ＮＡＣＳ－Ｊ　自然観察指導員）
持ちもの　鉛筆、野鳥の図鑑、双眼鏡
服　　装　汚れても良い服装　＊小雨決行

リュウキンカ

お問い合せ・お申込は

〒408-0022
山梨県北巨摩郡長坂町塚川 2812 番地
長坂町オオムラサキセンター
TEL&Fax　0551-32-6648
URL　http://www.yatsu.gr.jp/ngs/oomurasaki/index.html

エノキコーナー vol 6

4月の自然観察歩道で

国蝶オオムラサキを守る会で４月７日（土）春の越冬幼虫調査会をＣ－４の標本木で行い、７４，４%の越冬幼虫を数えました。その後、深沢川の歩道で春の芽吹き,草萌の中でウグイスカグラなどの小さな可憐な花や笹の株かげで一輪の「真っ白な花」を見付けました。「アズマイチゲ」で近くに２、３株ありましたが元気な笹に圧し潰されて？来年また咲いてくれるかなと心配です。チョッと手助けをしようかなと思いました。

サテ・・・ドウシヨウ　と悩んでいます。

朝日竹夫

アズマイチゲ

オオムラサキ自然公園の様子

日々、新しい花が咲き、花たちがにぎやかにおしゃべりをしているようです。木々も若草色の芽を枝の先に付け、赤ちゃんが手の平を広げているように見えます。

それでは、もえぎ色のオオムラサキ自然公園を紹介しましょう。

＜花を咲かせている草木＞

ヤマブキ、カイドウ、ミツマタ、コブシ、クサボケ、レンギョウ、サクラ類、ユキヤナギ、ツバキ、キリシマツツジ

イカリソウ、ヒトリシズカ、ジュウニヒトエ、カキドウシ、カタクリ、ミズバショウ、ムラサキケマン、ヒメオドリコソウ、スミレ類、スズランスイセン、サクラソウ、ホトケノザ、カラスノエンドウ、ナズナ、タネツケバナ、ミツバツチグリ、ナノハナ、スイセン、オオイヌノフグリ、ツクシ、日本タンポポ、西洋タンポポ、フキノトウ、シバザクラ、リュウキンカ

＜４月１５日に観察された山野草＞

ノカンゾウ、ウド、ミツバ、アケビの葉、ゼンマイ、セリ、ノビル、ヨモギ、ハコベ、ワラビ、タラの芽

イカリソウ

一緒にオオムラサキのことを学ぼう

＝「オオムラサキ博士になろう」オオムラサキの観察１実施報告＝

４月８日（日）午前１０時から、オオムラサキ自然公園において自然とオオムラサキに親しむ会の朝日竹夫さんを講師にお迎えして春のオオムラサキの観察を行ないました。オオムラサキの一生について説明を受けた後に、実際に越冬しているオオムラサキの幼虫を観察し、みんなで画用紙にスケッチをしました。そのことでよく観察できたのか、参加したお父さんが「今、オオムラサキの幼虫が、体の色を少しずつ緑に変えているという事を間じかで観察できてとても感動しました。」と話してくれました。

このオオムラサキの観察会は、今年度１０回にわたって行う予定です。オオムラサキ博士を目指して君も参加してみよう。

オオムラサキの幼虫をスケッチするの様子

山野草を観察しながら・・・。

ちょうのガーデニング

県造園技能師会峡北支部「北緑会」の協力を得て「蝶の舞うやさしいガーデニングスクール」を行ないました。蝶が好む花を中心に寄せ植えのポイントやガーデニングに適する土作り、アレンジの仕方などを学びました。参加者は風に揺れる色とりどりの花に見とれながら楽しそうに植え込んでいました。また、会場では花や植木の即売も開かれ、大勢の訪問客でにぎわいました。

花の荷馬車を　ありがとうございました。

「北緑会」の方が手づくりで作ってくださった荷馬車風のガーデニングの台に今、きれいな花々の寄せ植えが飾ってあります。ぜひ、見にいらして下さい。

春のお味は？！

「里山を楽しむ」実施報告

４月１５日（日）午前１０時から、オオムラサキ自然公園において自然観察指導員の柴山裕子さんを講師にお迎えして春の里山の山野草を観察し、山野草クッキングをしました。私たちが普段、足元で見かける草花があっという間においしい料理に変身して、子供たちもびっくりしながらほおばっていました。特にタンポポの天ぷらは「もっと食べたい。」と何度も自分で摘んで来ては油で揚げてもらっていました。

柴山さんは「身近な自然にまず親しんでもらい、そこから大切にしようという気持ちが芽生えてくれればうれしいです。」と話してくれました。

今年度もよろしくお願い致します。

常日頃、皆様には暖かいご支援、ご協力をいただきまして、ありがとうございます。

今年は、職員が増え、新メンバーが加わりました。これからも職員一同、頑張っていきたいと思います。

今後もよろしくお願いいたします。

オオムラサキセンター職員一同